

クロソイ放流技術開発調査

(抄 録)

山 中 崇 裕 ・ 菊 谷 尚 久

放流環境要因調査

1 追跡調査

標識魚約60,000尾を放流後アイナメ籠による追跡調査を実施し、中間育成方法の違いによる放流後の移動、分散及び摂餌状況を把握し、種苗性について検討した。

調査期間中、囲い網放流群42尾、網生け簀放流群126尾、昨年度放流魚27尾、天然魚88尾が採捕された。

追跡調査で採集されたクロソイの空胃率を比較したところ、囲い網群が従来群（浮き網生け簀群）より空胃率が低く、種苗性の向上が推察された。

2 漁獲実態調査

市場調査の結果から、脇野沢村漁協での放流魚の再捕率は0.20～5.78%であり、漁獲量等から回収率を推定したところ、0.21～6.46%であった。

遊漁実態調査の結果、脇野沢村沿岸でのクロソイ釣獲尾数は3,955尾、内放流尾数は425尾と推定された。

3 大型魚標識放流

脇野沢村で飼育している2、3年魚のクロソイ1,800尾にスパゲティタグ標識を装着し、牛の首地先で放流した。51尾の再捕報告があったが、すべて脇野沢村からの報告であった。